

令和8年度大任町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

大任町においては、これまで主食用米を中心に麦・大豆・野菜などが生産されてきた。生産者の大部分は零細規模の農家で、効率的な農業経営が行われているとは言い難く、高齢化も進行しており、生産者の減少による荒廃農地の増加が心配される状況となっている。

また以前はブロックローテーションによる大豆の転作が行われていたが、現在ではブロックローテーションが崩壊し、大豆作付地が固定化したため、連作障害による地力低下に悩まされている。

近年は飼料用米等の新規需要米を生産する農家や新規就農者が園芸栽培を開始するケースも増加傾向にあるが、まだまだ小規模なものであり、関係機関と連携し、計画的に育成に努めていく必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本町では、主食用米以外への作物への転換を促進するため、高収益作物の拡大を目指している。特にニンニクについては町の特産品化に向けて重点的に取り組んでおり、平成28年に大任町とたがわ農協の共同出資による(株)おおうニンニク食品を設立し、大任産ニンニクを活用したニンニク球やニンニクドレッシングの生産に取り組み付加価値の向上を図っている。

また、産地交付金を活用し、高収益作物を生産する農家の作付面積の拡大と土壌改良などの水田の収益力強化に取り組んでいく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

毎年生産者より提出される営農計画書により作付予定や生産者の意向を整理、把握し、水田台帳に基づくほ場の現地確認等により、畑作物のみの生産が続く水田や長期間水稻の作付がない水田について、地域の実情に応じて畑地化の検討・推進を図る。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産を基本としつつ、「美味しい・安全・安心・安価」をキーワードとして、消費者・実需者ニーズを重視した、品種誘導を地域の水系と団地化栽培を基本に行う。また、地域の特徴ある米づくり・品質の安定した米づくりを実践し、産地の評価を高め、需要の確保を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米から非主食用米への作付け転換を推進するため、飼料用米の作付拡大に努める。

イ WCS 用稲

主食用米から非主食用米への作付け転換を推進するため、WCS 用稲の作付拡大に努める。また産地交付金を活用して、耕畜連携も推進する。

(3) 麦、大豆

産地交付金を活用して担い手を中心に作付を推進し、面積の拡大を図るとともに、生産者に対して排水対策や雑草の抑制、連作障害の抑止などの取組を励行し収益性の向上を図る。

(4) 高収益作物

産地交付金を活用し、所得性の高い作物の作付面積の維持・拡大を図り、農業経営を基幹とする農家の育成や新規就農者等への支援と労働力の低減を図るとともに、後継者不足に対する生産体制も整備する。

また、大任町が推進するニンニクの産地化に向け、農協等の関係機関と連携し、重点的に作付農家に対して支援を行う。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	199.5		135.0		130.8	
飼料用米	3.1		10.0		10.5	
WCS用稲	1.0		1.0		1.5	
麦	2.2	3.7	6.1	6.1	6.0	6.0
大豆	11.5		22.5		28.5	
高収益作物	2.9		9.8		8.3	
・ 野菜	2.8		9.5		8.0	
・ 花き・花木	0.1		0.3		0.3	
・ 果樹	0.0		0.0		0.0	
畑地化	0.6		1.5		1.5	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	大豆	生産性の向上のための支援 （基幹）	交付対象面積 単収	（R7年度）11.5ha （R7年度）19kg/10a	（R8年度）28.5ha （R8年度）80kg/10a
2	麦	二毛作助成（二毛作）	交付対象面積 麦の二毛作作付率	（R7年度）2.2ha （R7年度）0.58%	（R8年度）6.0ha （R8年度）2.69%
3	WCS用稲	資源循環助成（耕畜連携）	粗飼料作物作付面積 堆肥散布面積拡大 実施率	（R7年度）1.0ha （R7年度）1.0ha （R7年度）100%	（R8年度）1.5ha （R8年度）1.5ha （R8年度）100%
4	野菜、果樹、 花き・花木	高収益作物助成（基幹）	交付対象面積	（R7年度）2.6ha	（R8年度）9.0ha
5	野菜、果樹、 花き・花木	高収益作物の収益性向 上のための支援（基幹）	交付対象面積	（R7年度）1.0ha	（R8年度）5.0ha
6	ニンニク	地域ブランド育成に向 けた取組（基幹）	交付対象面積	（R7年度）0.4ha	（R8年度）1.4ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:福岡県

協議会名:大任町地域農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	生産性向上のための支援(基幹)	1	20,000	大豆	大豆を作付し、収量向上を図る取組を支援
2	二毛作助成(二毛作)	2	10,000	麦	二毛作で麦を作付し、販売収入の増大を図る取組を支援
3	資源循環助成(耕畜連携)	3	13,000	WCS用稲	耕畜連携の取組支援
4	高収益作物助成(基幹)	1	15,000	野菜、果樹、花き・花木(別表)	高収益作物(基幹)を作付けする農業者・営農組織に対する支援
5	高収益作物の収益性向上のための支援(基幹)	1	10,000	野菜、果樹、花き・花木(別表)	土壌改良面積に応じ取組を支援
6	地域ブランド育成に向けた取組(基幹)	1	20,000	ニンニク	ニンニクを作付けする農業者・営農組織に対する支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。